



「週末はテレビ中継に釘付けだったわ」

にこやかにそう言葉をかけてきたのは当地のウクライナ大使でした。

5月22日のあるレセプションでのことです。

その前日まで、日本では G7 広島サミットが開催され、ゼレンスキー大統領が電撃訪日し、岸田総理をはじめ G7 首脳と会談をしたのでした。

このレセプションでは、とても多くの人から G7 広島サミットの成功へのお祝いと日本の外交イニシアチブへの敬意を表されました。

確かに G7 広島サミットは現在の非常に厳しい国際情勢の中で、大きな成果を上げたと言えると思います。

The Wall Street Journal のコラムでは、「毎年開催される G7 のほとんどは、すぐに忘れられる空虚なイベントだ。G7 広島サミットは異例だった。それは今回の会議が重要だったからだ」とし、「国際的な危機への結束した対応を引き出すための節目となった」旨評価しました。

私自身、G7 広島サミットに向けて、去る 3 月末にニーニスト大統領を公邸にお迎えし G7 諸国の大使たちと意見交換を行うなど、こちらで出来ることはしてきました。ですが、広島で実際に行われたことは、その時点での私の想定をずっと上回っていました。

私はこれを誇りに感じています。

今回の出来事で思い出したのは、もう 20 年も前に日本の総理大臣が南米を訪問し、日系人の方々と懇談した時のやりとりです。総理大臣は、「日本政府が皆さんの為に何かしてほしいことはありますか？」と要望を訊きました。これに対して、日系人代表の方は、「何もありません。ただ、日本が立派な国であり続けて下さい。それが私たちにとっての誇りなのです。」と応えたのでした。

「ふるさととは遠きにありて思ふもの」だけではなく、日本の国と社会が実際に立派であることが、海外に暮らす私たちにとっても大切なことであると、改めて感じました。

2023 年 5 月

駐フィンランド大使 藤村和広

補足：

G7 広島サミットには、在フィンランド日本大使館からも一か月以上に亘り応援出張者を派遣しました。この大使館員がサミットの事務当局、裏方の一員として、その成功に貢献したことも、私はとても誇りに思っています。身内のことではありますが、このことを補足させて下さい。

○ニーニスト大統領と G7 大使との意見交換（2023 年 3 月 30 日、於日本大使公邸）

